

# 福まち活動の手引き

## ～なかまを増やそう! 編～

本当にあった  
ちょっといい話も  
掲載しています♪



札幌市・区社会福祉協議会 / 札幌市



# もくじ

- I はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  
- II なかまを増やす取組事例の紹介・・・・・・・・・・・・ 4
  
- III 福まちのちょっといい話  
～心温まるほっこりエピソード・・・・・・・・・・・・ 11
  
- IV 参考「福祉のまち推進事業について」・・・・・・・・ 15
  
- V 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

# I はじめに

私たちの住む札幌市では、急速な少子高齢化や、単身世帯の増加、人間関係の希薄化などにより、地域住民の皆さんが抱える困りごとは増加し、その内容は複雑で多様なものへと変化してきています。

札幌市社会福祉協議会では、こうした困りごとの解決や孤立を防ぐ住民同士の支え合い（地域福祉活動）を活発なものとするために、平成7年から福祉のまち推進事業（以下「福まち事業」※）を行っています。

※「福まち事業」についてはP15を参照

福まち事業は、これまで活動に携わってきた皆様のご尽力が実を結び、札幌市の地域福祉を支える柱として、見守り・訪問活動を中心とした日常生活支援活動が市内各地で展開されていますが、近年は、活動の担い手（なかま）の固定化や不足が大きな課題となっています。

そこで、本冊子は「福まち活動の手引き～なかまを増やそう！編」として、福まち活動においてなかま（個人や団体）を増やしている取組事例の紹介や、福まち活動の中で出会った心温まる“ほっこり”エピソードを紹介し、福まち活動に関わる魅力を広く伝えることで、新たな担い手の発掘の一助としていただくことを目的として作成しました。

本冊子をそれぞれの地域でご活用いただき、今後の福まち事業のより一層の充実と発展につなげていただきたいと思います。

平成 31年 3月

社会福祉法人 札幌市・各区社会福祉協議会

## 本冊子の使い方

### ●活動事例からなかまを増やすヒントを！

本冊子では、視点や発想の転換、少しの工夫によって福まちの活動者や協力団体を増やしている取組みを3事例紹介しています。

地域によって事情は異なりますが、皆様の地域でなかまを増やすヒントにいただければ幸いです。



### ●ほっこりエピソードで福まちの魅力を確認！

本冊子では、福まち活動の中で出会った、心がほっこり温まるちょっといい話を3事例紹介しています。

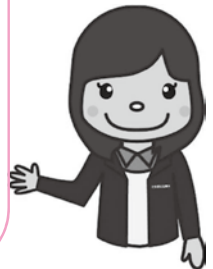
活動を通じて、たくさんのほっこりに出会える福まち活動の魅力を確認しましょう。



### ●福まち活動の魅力を発信してなかまを増やす！

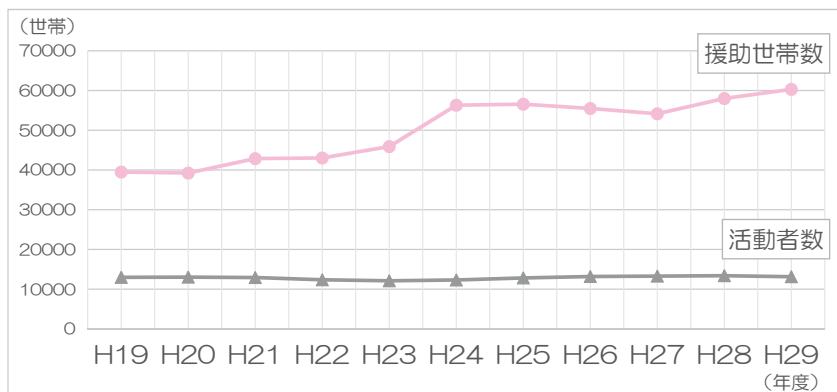
すでに福まち活動に参加している皆様は、本冊子で紹介したエピソードと似たようなほっこりを体験しているはずです。

本冊子に、皆様の体験したほっこりエピソードをメモして、なかまと共有したり、まだ活動に参加していない方へ福まち活動の魅力を発信しましょう。



## 福まちの活動者と援助世帯の推移

福まちの活動者数は、13,122人（H29 現在）で、10年間で143名増えていますが、福まち活動で支援しているひとり暮らし高齢者等の援助世帯は、60,306世帯で約1.5倍になっています。



## なかまを増やす取組み

福まち活動において、大きな課題となっている担い手の固定化や不足の解消にはいくつかの手法が考えられ、これまでも各地域で実践されています。

### ★例1) 広報活動

広報紙やチラシを定期的に発行し、高齢化等の地域の現状や、担い手不足である福まちの実情を伝えて、趣旨に賛同してくれるなかまを募集する。

### ★例2) 住民向け講座の開催

介護保険や認知症など住民の関心が高い講座を開催し、参加した住民に福まち活動の目的等を伝えてなかまに勧誘する。

### ★例3) 多世代への勧誘

お祭りや子育てサロンなど多世代が参加するイベント時に、福まち活動の目的を伝えて、仕事をしていても可能な範囲での協力方法を提案する。

### ★例4) 福祉施設や企業との連携

地域にある高齢者や障がい者の支援施設や民間企業に、交流会や除雪活動への協力、サロン会場としての施設開放を社会貢献活動として提案し、協力団体になってもらう。

◎ そのほかにも様々なアイデアでなかまを増やしている地域があります！

## Ⅱ なかまを増やす取組み(事例①)

### 『福祉施設・企業と共につくる福祉のまち』

東区北栄地区新道東町内会

#### ① 施設の建設と反対運動

新道東町内会では、平成13年に札幌市から精神障がい者の授産施設等の新設計画が提示されましたが、当時は大阪池田小で発生した児童殺傷事件の影響も大きく、施設建設への住民反対運動が起きました。

施設の建設について、何度も町内会役員で話し合いを重ね、他障がい関係施設の見学や精神障がい者支援活動の先進地域のビデオを視聴し、その理念や取組みを知るうちに、実は「知らない」ということが偏見につながっていたことに気づきました。

当時、副会長だった井上さんら役員は、偏見をなくして施設と共に福祉のまちづくりを進めるべく、3回の住民説明会のほか、特に不安を訴える住民宅を何度も訪問して、精神障がい者支援の取組みについて丁寧に説明するなど、建設に反対する住民を粘り強く説得しました。



(井上秀勝 町内会長(左)と  
さっぽろひかり福祉会の高井さん(右))

#### ② 福祉施設が町内会活動の拠点に

町内会役員の説得により、反対運動を乗り越えて建設された、さっぽろひかり福祉会が運営する施設は、現在では町内会の活動拠点となっています。

また、施設的环境整備の支援やお互いの行事に協力し合うことにより、地域住民の福祉への理解が高まり、住民同士の結びつきが強まりました。

さらに、地域貢献で施設の除雪に取り組んでいるイオン札幌元町店や、毎年施設へ寄付している北海道新聞厚地販売所など、施設への支援を通じて町内会と企業との接点生まれ、町内会行事へ協力いただくなど、施設を基盤とした地域のネットワークが広がっています。

### ③ 日頃の関係が災害時にも

また、平成30年9月6日の胆振東部地震の際には、町内会・さっぽろひかり福祉会・サロン参加者など、多くの地域のなかまが日頃から協力し合える関係を築いてきたことが大きな成果となって現れました。

施設にあった材料や設備を活用して、住民への給水や炊き出しを行い、日頃から状況を把握していたマンション居住の高齢者へは、関係者が協力して階段で水を運ぶといった支援へとつながりました。



### ④ 共につくる福祉のまち

社会福祉施設における日常的な支援を通じて、地域住民の福祉への理解が深まり、住民同士や企業との協力関係が深まった事例です。

そのことにより、こちらの地域では、日頃の見守り・訪問活動やサロン活動が円滑に進められています。

地域には、高齢者、障がい者を支援する福祉施設、様々な事業を展開する企業が数多く存在しています。そうした施設や企業とも協力しながら住みよい地域づくりを行っていくことが重要です。



## Ⅱ なかまを増やす取組み(事例②)

『もう一度見つめ直す。人の強みを活かした体制づくり』

豊平区西岡地区西岡さくら町内会

### ① 人口の増加と高齢化

西岡さくら町内会では、平成28年に会長に就任した山口会長のリーダーシップにより、なかまづくりを進めています。

当該町内会は、人口が約2,300人、約800世帯の大きな町内会で、地域の社会資源（学校、病院、金融機関、大型店舗）にも恵まれ環境も良く、人口（特に若い世代）は増加傾向にあります。

一方で、生活上の様々な困りごとが増え、急増する高齢者への安否確認、見守り・訪問に関することが切実な課題となっています。



(山口明 町内会長)

### ② 地域は人材の宝庫である

こうした中、山口会長は、町内会の規模が大きいため、多様な生活上の問題が数多く発生する一方で、こうした問題に対応できる人材が豊富なのではないかと考えました。

これまでの町内会活動や趣味活動で出会った人たちには、それぞれ強みや得意分野がありました。体力があり丈夫な人、文書作成に長けている人、パソコン操作を得意とする人などを選び抜いて、適材適所で得意分野を活かすことのできる活動への協力をお願いし、効率的に取組みを進めることを心がけました。



### ③ 適材適所で支援体制を整備

その結果、町内会の福祉推進員も10名ほど増え、胆振東部地震の際には、日頃の見守りの対象としている高齢者世帯に対して、福祉推進員が迅速に安否確認の訪問を実施し、感謝の言葉が多く寄せられました。

また、これまで誰もいなかった福祉除雪の地域協力員が6名となり、地域で見守り・支え合う環境が一層整ってきています。

### ④ もう一度、人の強みに着目

地域には、様々な強み(＝得意なこと)をもった人たちが暮らしています。

今後目指すべき地域共生社会では、住民が世代や背景を超えてつながり、相互に役割を持ち、「支え手」「受け手」という関係を超えて支え合うことが求められています。

この事例では、改めてこれまで出会った人材の強みに着目し、町内の福祉活動を進めるために「必要とされること」に、その人たちが「できること」「やりたいこと」を適材適所で発揮できるように体制づくりを進めてきました。

誰もが得意なことを活かして、いつまでも活躍できる地域づくりのために、もう一度地域の方のそれぞれの強みに着目してみてもいいのではないでしょうか。



## Ⅱ なかまを増やす取組み(事例③)

「既存事業を活かして“なかま”を増やす」

西区西町地区福祉のまち推進センター

### ① 新たなチャレンジ

西町地区福祉のまち推進センターでは、見守り・訪問活動の担い手や福祉除雪事業の地域協力員の不足が大きな課題とされてきました。

取組みの内容は異なるものの活動者の不足という共通した課題の解決を図るため、平成30年度に、当センターで初の試みとして「地域協力員の顔合わせ会・事業説明会」を行いました。



(地域協力員との顔合わせ会の様子)

参加した地域協力員には、福祉除雪事業に関する説明とともに、福祉のまち推進センターの目的や見守り・訪問活動などの取組みの紹介を行ったうえで、除雪活動の際には、福祉推進員が見守り・訪問活動において行う活動記録を行っていただくよう協力を呼びかけました。



## ② 既存事業との相乗効果

西町地区福祉のまち推進センター事務局長の望月さんからは、「地域の担い手は、かなり限られている状況にある。まずは、既存の地域住民の支え合いに関する事業を一体的に行うことにより、相乗効果を図っていききたい。」という言葉もありました。

もともと、福祉除雪事業は地域の助け合いとして、除雪のみならず利用世帯の安否確認が含まれていることから、この取り組みは効果的なアイデアといえます。

## ③ 一体的に福祉活動を展開

この事例では、これまで福まち活動とあまり接点のなかった方たちが、福祉除雪事業への協力者に手を挙げてくださったタイミングを捉えて、想いのある方たちに福まち活動の目的を説明できたことが、なかまを増やすことにつながりました。

地域の支え合いの取組みは様々で、参加している人たちのきっかけもそれぞれですが、地域貢献・社会貢献の想いは同じです。

多様な取組みを一体的に展開して、点と点の取組みを線や面にしていくことが、担い手不足を補う一つの方法ではないでしょうか。



## Ⅱ なかまを増やす取組み(事例④)

本冊子で紹介した取組みなどをヒントに、みなさんの地域でも福まち活動のなかまを増やす取組みを検討してみましょう。

このページに、みなさんのアイデアをメモして、すでに活動している“なかま”と共有しましょう。

また、そのアイデア・取組みについて、ぜひ市・区社協職員にも教えてください。

『

』

( ) 区 ( ) 地区 ( )  
( ) さん



### Ⅲ 福まちのちょっといい話 ～心温まるほっこりエピソード①～

#### 『私は“くい”になりたい』

厚別区厚別東地区福祉のまち推進センター  
長谷川 雄助さん

町内会長になって8年になりますが、会長になった  
当時は福まちの取組みについて全く知りませんでした。

そんな私も、今では地区福まちの事務局長を務め、  
活動の活性化に向けて組織改編や規程整備などを  
行い、この活動で知り合えたたくさんの仲間とともに  
福祉のまちづくりを進めています。



自分の町内会では、高齢者や子どもたちへ率先して声をかけるようになり、  
うるさいオヤジだと思われるかもしれませんが、色々としゃべることで  
煙たがる方もいることでしょう。しかし、『出る杭（くい）は打たれる』という  
ことわざがありますが、私は杭になって打たれてみようと思っているのです。

数年前にこんなことがありました。脳性まひで障がいのある子どもと母親が  
暮らしていたのですが、昔からこの家族を気にかけていたこともあり、2人で家  
に閉じこもらずに、外に出て積極的に社会と関わることをすすめていました。

そんなある日、町内会で公園清掃をしていると、その親子が顔を見せました。  
参加している人たちは、障がいのある子にどう接したのか戸惑っているよう  
だったので、私はみんなに聞こえるようにわざと大きな声で、普通にその子に話  
しかけました。やがて、その様子を見ていた人たちも普通に挨拶をし、声をかけ  
始めてくれたのです。

少しのおせっかいで声をかけて、大きな声で話しかけたことで、家族と地域  
住民とのつながりが生まれた瞬間でした。何かのきっかけを生み、地域に絆のロ  
ープが繋がっていく杭なら、これからもどんどん出していこうと思えた出来  
事でした。

### Ⅲ 福まちのちょっといい話 ～心温まるほっこりエピソード②～

#### 『おはぎと切干大根』

清田区里塚美しが丘地区福祉のまち推進センター  
早崎 敏子さん

これまで福まちのスタッフとして、長年、地域の高齢者のみなさんに“おはぎのお弁当”を作ってきました。

だんだんと身体もしんどくなってきたので、いつまで続けられるか考えていた矢先に、体調を崩して入

院することになってしまいました。ところが、その入院中にとっても素敵な出会いがあったのです。

病室でお隣りになった高齢の女性が、向かいの方と楽しげにお話をしていたのですが、彼女の口から「町内会の方が毎年配ってくれる“あんこ”と“きな粉”のおはぎ弁当に入っている“切干大根”がすごく美味しくて、いつも楽しみにしているの。早く退院しないと。」という話がでて、とてもびっくりしました。

あんこときな粉のおはぎと切干大根の組合せは、私たちの地域でつくっているお弁当で、切干大根は私の得意料理だったのです。

自分が一生懸命やっていたことを楽しみに待っている人がいることに、改めて気づかされました。長年続けているうちに、作ること自体が目的になっていた気がします。

これからも健康が続く限り、地域の高齢者のみなさんのお元氣と幸せを願いながら、おはぎと切干大根を作ってお届けしようと思います。

きっと私は楽しみに待ってくれている彼女の笑顔を思い浮かべることでしょう。



### Ⅲ 福まちのちょっといい話 ～心温まるほっこりエピソード③～

『まあ、お茶でも一杯どうだ?』 手稲区富丘西宮の沢地区福祉のまち推進センター  
吉田 和俊さん

その高齢の男性は、広い庭がある立派な一戸建てに  
単身でお住まいでした。

これまで、サロンなど町内会の取り組みには積極的に  
参加される方でしたが、見守り・訪問については、  
「うっとうしい!」「バカにしているのか!」と、かなり  
厳しい態度で拒絶されていました。



しばらくすると、行事の参加率が低下し、以前はきちんと整備されていた庭にも雑草が目立つようになり、さらには自宅での調理中の火傷など心配な出来事も生じたため、時には自分ではなく女性部長に代理で訪問してもらうほか、地域の関係者や区、社協等とも連携を図りながら、本人との関係を断ち切らないよう努力していました。

そのうち、「最初は玄関のベルだけでも押してくれないか」など態度に徐々に変化が見られ始めました。また、「実は困りごとがあるんだが」といった一歩踏み込んだ相談もいただくようになってきました。本人は病院嫌いでもありましたが、何とか病院での診察も受けていただくようになりました。根気強く関わる中で、「まあ、家にあがってくれ。お茶でも一杯どうだ?」と声をかけていただいたことは、自分にとって貴重な体験となりました。

地域の支え合いを進める中で、自分の「役割」を前面に出して相手と関わるがありますが、実はそれが対象者にとって意に沿わず、「壁」を作られてしまうことがあるように感じました。ただ、できてしまった「壁」でも、あきらめなければいつかは超えられるもの。時には相手に合わせて「入れ代わり・立ち代わり」も行いながら、今後も地道な信頼関係づくりに励みたいと考えています。

### Ⅲ 福まちのちょっといい話 ～心温まるほっこりエピソード④～

みなさんも福まち活動を通じて、たくさんの心温まる「ほっこりエピソード」をお持ちだと思います。

このページに、みなさんのエピソードをメモしていきましょう。

メモしたエピソードは、活動している“なかま”と共有したり、まだ活動に参加していない方に伝えて“なかま”に誘いましょう。

また、そのエピソードをぜひ市・区社協職員にも教えてください。

『

』

( ) 区 ( ) 地区 ( )

( ) さん

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



## Ⅳ 参考「福祉のまち推進事業について」

福祉のまち推進事業（以下「福まち事業」）は、幅広い市民の福祉活動への参加を促すことにより「誰もが安心して暮らせる地域社会を築く」ことを目的として、札幌市・各区社会福祉協議会（以下「市社協・区社協」）と、札幌市が協力して実施している事業です。

この事業では、地区社会福祉協議会（以下「地区社協」）に「地区福祉のまち推進センター」（以下「地区福まち」）を設置して、以下の2つの基本目標を掲げ、市民の支え合い活動を進めています。

基本  
目標

- ① 地域住民の日常的な支え合い活動の推進
- ② ボランティアによる福祉サービスの推進

### ● 福まち事業の推進体制

地区福まちは、地域の関係団体の集合体である地区社協の活動部門として位置づけられ、基本目標の達成のために、主に5つの活動に取り組んでいます。



## ● 日常生活支援活動（福まちの重点活動）

町内会という顔の見える身近な生活圏域で、見守り・訪問活動やゴミ出し、除雪、話し相手、外出支援などの日常生活支援を実施しています。また、町内会ごとに「福祉推進委員会」を設置して、地域住民や関係団体が協力・連携しながら、支え合い活動を組織的に展開しています。

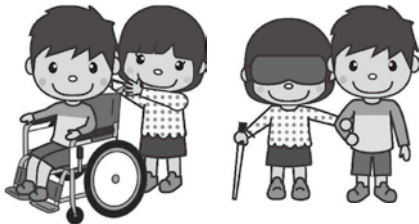
## ● 調査・点検活動

日常生活支援活動の対象世帯の把握に向けて、福祉マップの作成や、住民の困りごとの調査などを実施しています。



## ● 学習・研修活動

日常生活支援活動にかかわる知識・技術の向上や、住民の地域福祉への理解と参加促進を図るために様々な講座や研修会を開催しています。



## ● ふれあい交流活動

住民同士がつながり、支え合う関係を築くために、ふれあい・いきいきサロンなどの定期的な交流の場作りや、様々な交流行事を開催しています。



## ● 広報・啓発活動

より多くの市民に地域福祉に理解いただき、活動への参加が促進されるよう、広報紙やチラシ等を作成・配布して、福まちなどの取組みを紹介しています。



## V 参考資料

札幌市社会福祉協議会では、市民の皆さんの地域福祉の取組みを支援するため、手引書や事例集を作成しています。

各種冊子が必要な方や関心のある方は、最寄りの社会福祉協議会までご連絡ください。



### 《福まち活動の手引き【改訂版】》

(平成 30 年 3 月発行)

(内 容)

- 1 地域での支え合い なぜ求められているのか
- 2 札幌市における住民相互の支え合い活動
- 3 福祉推進委員会の役割と活動
- 4 地区福祉のまち推進センターの役割と活動
- 5 地区福まちと民生委員・児童委員との連携
- 6 地区福まち活動における個人情報の取り扱い

～テーマ別の手引書や活動事例集も発行しています～



#### ◎福まち活動の手引き（テーマ別）

- ・個人情報の取り扱い編
- ・福祉推進委員会の開設・活動編
- ・地域福祉マップ編

#### ◎見守りのすすめ

- ・入門編
- ・声かけ・訪問編
- ・活動の記録と情報の共有編

#### ◎活動事例集

- ・地域の福祉活動
- ・ふれあい・いきいきサロン

各冊子はホームページ

<http://www.sapporo-shakyo.or.jp/>

からダウンロードできます

## 福まち活動に関するお問い合わせ先

お住まいの区の社協	所在地	電話番号
中央区社会福祉協議会	札幌市中央区南2条西10丁目 中央区民センター1階	281-6113
北 区社会福祉協議会	札幌市北区北24条西6丁目 北区役所1階	757-2482
東 区社会福祉協議会	札幌市東区北11条東7丁目 東区民センター1階	741-6440
白石区社会福祉協議会	札幌市白石区南郷通1丁目南8 白石区複合庁舎1階	861-3700
厚別区社会福祉協議会	札幌市厚別区厚別中央1条5丁目 厚別区民センター1階	895-2483
豊平区社会福祉協議会	札幌市豊平区平岸6条10丁目 豊平区民センター1階	815-2940
清田区社会福祉協議会	札幌市清田区平岡1条1丁目 清田区総合庁舎3階	889-2491
南 区社会福祉協議会	札幌市南区真駒内幸町2丁目 南区役所3階	582-2415
西 区社会福祉協議会	札幌市西区琴似2条7丁目 西区役所1階	641-6996
手稲区社会福祉協議会	札幌市手稲区前田1条11丁目 手稲区民センター1階	681-2644
札幌市社会福祉協議会	札幌市中央区大通西19丁目1-1 札幌市社会福祉総合センター3階	614-3344

- 作成 社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会 / 札幌市
- 協力 社会福祉法人 各区社会福祉協議会
- 問合せ 札幌市中央区大通西19丁目1-1  
札幌市社会福祉総合センター3階  
TEL:011-614-3344 FAX:011-614-1109  
ホームページ <http://www.sapporo-shakyo.or.jp/>  
※ 本冊子はホームページからダウンロードできます
- 発行日 平成31年3月